

信州大実(しんしゅうおおみ)

登録番号：第36号

登録年月日：昭和55年3月31日

登録者：長野県(長野市南長野
字幅下692-2)

育成者：東條喜久 小林祐造

中島富衛

来歴：「新潟大実」と「アーリー
オレンジ」の交雑実生

登録取消：(平成3年4月1日)

特性

■栽培特性

樹姿はやや直立性を示し、樹勢は強く、樹冠が大きい。枝梢は濃赤褐色で太く、枝の発生量は少ないが、短果枝および花芽の着生は良好である。開花期は育成地で4月上中旬で、「平和」、「新潟大実」等の主要品種とほぼ同時期である。花は一重で普通咲き、大きさは中程度で色は淡桃色でやや薄い。不完全花の発生は少ない。葉は、父親の「アーリーオレンジ」と似て極めて大きく、葉形は円状広卵形、葉面に毛じはなく、葉色も濃い。

自家和合性であるが、品種が単一化されると結実が不安定になるので、授粉樹を20~30%程度混植し、結実の安定を図る。授粉樹には、開花期に近い「平和」、「新潟大実」、「信月」、「信陽」等が適する。

花芽が多く、結実量も良好なため、摘果が必要である。着果過多になると、小玉になり、果実品質が低下し、樹勢衰弱や隔年結果の原因にもなる。生理的落果は少なく、大果で結実が安定しているため収量性が高い。成木で10a当たり2t以上を目標にする。裂果の発生は、「新潟大実」、「山形3号」等と同程度でほとんど見られない。

収穫期は満開後約93日前後で、育成地(長野県須坂市)で7月中旬に成熟し、「平和」より約2週間、「新潟大実」より約1週間遅い晩生種である。胴枯病に対しては、中程度であるが、凍害、日焼け、コスカシバ等の障害により発生が多くなるので注意する。

■果実特性

果形は円形、果頂部の窪みは浅く、梗あ部の深さは中程度である。赤道部の縫合線は明瞭でやや深い。1果重は80~90g程度で、「平和」、「新潟大実」、「山形3号」等比べて大きい。果皮の地色は橙黄色、陽光面の着色はやや多く、外観は良好である。果肉色は橙色、繊維の量、肉質は共に中程度で、果汁はやや多い。渋味、苦味はなく、完熟すると香気が多い。糖度は10~11%、酸味はpH3.3前後で「平和」や「新潟大実」より少ないため、生食用品種としても期待できる。核は離核で大きく、果面の紋様は波状である。果実の日持ち性は、あんずの中ではやや良い部類に入る。

加工製品では、シロップ漬、ジャム用として優れている。特に、二つ割りシロップ漬は、果肉が鮮やかな橙色に仕上がりが、肉崩れがないため糖液に透明感があり、食味も優れている。

■病虫害抵抗性

通常の防除を行っていれば特に問題ない。新梢はアブラムシに対して抵抗性を有し、灰星病に対してはやや強い。

■地域適応性

アズズの適地は、リンゴの産地とほぼ一致していると言われているが、わが国では、カンキツ類が栽培されている西南暖地でも栽培がみられる。適地条件として、開花期と成熟期に降雨が少ない地帯が適する。また、開花期が早いいため、凍霜害の被害を受けにくい場所が良い。

(宮沢孝幸)